

「社会臨床心理学」って？ —社会臨床心理学科がめざすもの—

吉田 弘司(よしだ ひろし)

hyoshida@hijiyama-u.ac.jp

<https://maruhi.heteml.net/>

社会臨床心理学科ができる前

▶ コミュニケーション学科(1994～2003)

- ▶ 4つの分野から人のコミュニケーションという活動を学び、社会に貢献できる人材を育てる

- ▶ マスコミ → 情報分野の一部と一緒にマスコミュニケーション学科に
 - ▶ 国際 → 言語文化学科(国際コミュニケーション専攻)と合併
 - ▶ 心理
 - ▶ 情報
- } 社会臨床心理学科に！

- ▶ 心理と情報(人間の情報処理)で新しい心理の学科へ！

▶ 学科名称の案

- ▶ 無難に「心理学科」← 広島の他大学たち...
- ▶ 総合的な心理学を学べる + 特色をもつ心理学科
 - ▶ コミュニケーション学科の心理学分野
 - 学生にも、教員にも、人と人のつながりを大切にする良い伝統と文化が浸透
 - この長所を活かした心理学科ができないか...

心理学の諸領域(1)

- ▶ 心理学は多くの専門領域(「〇〇心理学」)の複合体
 - ▶ 心理学ほど広い領域にわたる学問はない！
- ▶ 実験心理学
 - ▶ 心の法則を実験によって明らかにする方法を研究
- ▶ 知覚心理学・認知心理学
 - ▶ 人がどのように情報を処理・認識しているかを研究
- ▶ 生理心理学・神経心理学
 - ▶ 中枢神経系(脳)の働きと心の関連を研究
- ▶ 学習心理学・動物心理学・比較心理学
 - ▶ 人および動物の行動の獲得と形成について研究
- ▶ 発達心理学・乳幼児心理学・児童心理学・青年心理学, 生涯心理学
 - ▶ 心の成長発達を研究

心理学の諸領域(2)

- ▶ 教育心理学・学校心理学
 - ▶ 教育と心の関係を研究
- ▶ 社会心理学・集団心理学・家族心理学・産業心理学・環境心理学
 - ▶ 社会や人間関係と心の関連を研究
- ▶ 臨床心理学・健康心理学・性格心理学・犯罪心理学
 - ▶ 心の健康や病理について研究
- ▶ 他の学問領域とも密接な関係(広い学際領域)
 - ▶ 医学・生理学・生物学
 - ▶ 身体と心
 - ▶ 社会学・福祉学・教育学
 - ▶ 社会システムと人間
 - ▶ 工学・統計学・言語学・哲学

「社会臨床心理学」の枠組みに注目した

- ▶ 「臨床心理学」の枠組みを超えて、社会に開かれた心理援助活動を目指す



社会臨床心理学という学問

▶ 従来の臨床心理学

- ▶ 精神医学における「治療」構造を模した心理療法を行う
- ▶ 心の問題
 - ▶ 個人の内側(心)と現実生活(社会)の間の矛盾によって、心に混乱や混沌が生じる
- ▶ 心理療法が行うアプローチ
 - ▶ 閉鎖構造である面接室の中で、対象者の「心」をいったん「社会」から切り離し、その中で純粋に個人の内面にある「心」を対象として、その混乱・混沌を取り除く
- ▶ 従来の方法の問題点
 - ▶ 教育、司法・矯正、福祉、産業、医療・保健といった社会の諸領域において、各分野の専門職と協働した開かれた活動を発展させていくことが難しい

▶ 社会臨床心理学

- ▶ 「心」という概念を、個人の内面にある主観的世界として理解するのではなく、個人と社会をつなぐ「関係態」として理解する
- ▶ 心の内面を「治療」するのではなく、個人と社会のつながりを調整する心理援助活動を重視する

背景にあるのは, bio-psycho-socialモデル

- ▶ システム論の観点で, 心を関係性としてとらえる

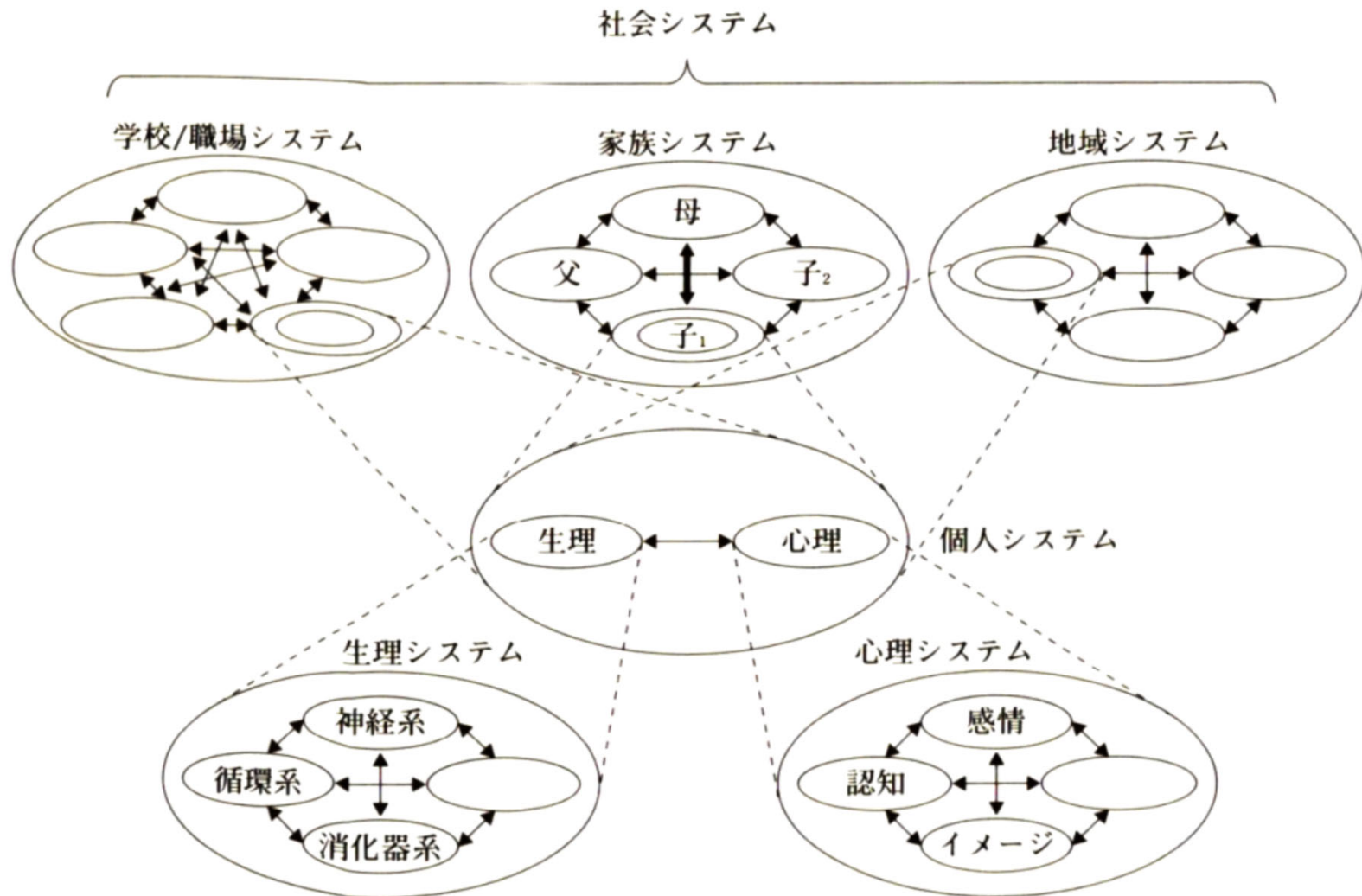


図1 システム論からみた個人の（生理および心理）と社会との関係性
（遊佐（1990）を一部改変）

社会臨床心理学のアプローチ

- ▶ 心の(内側の)問題に対し、**社会**や**人間関係**という(外側の)視点からアプローチを試みる
 - ▶ **心**の問題は**社会**の問題！
 - ▶ 心の問題の背景には、現代における家庭、学校／職場、地域社会など人間関係の急激な変化の影響がある
 - ▶ **社会適応**を援助することこそが、**こころの健康**をもたらすという考え
 - ▶ 従来の臨床的介入である「治療」よりも、人間関係に基づく「**こころの援助(サポート)**」を重視
- ▶ **社会に広く開かれたサポートシステムを構築**
 - ▶ 従来の臨床心理学...閉ざされたカウンセリングルームにおけるセラピスト v.s. クライアントの閉じた関係性
 - ▶ 社会臨床心理学...**開かれた社会**が活動の場
 - ▶ **地域社会**における**コミュニティ活動**なども重要な心理援助活動となる
 - ▶ 地域の中に心理援助のシステムがあれば、それは**予防的視点**からも**有効な資源(リソース)**となる

学科が育てたい学生像

▶ 学科の教育目標

- ▶ 「**こころの豊かさ**」を創出するこころの専門家の育成
 - ▶ 心理学の幅広い知識に加えて、「**豊かな共感性**」と「**確かなコミュニケーション能力**」を備えたこころの援助者
- ▶ 「**コミュニケーション**」を重視！
 - ▶ 社会臨床心理学科の前身はコミュニケーション学科
- ▶ **日常的視点**から貢献できるような心理学の実践者を育てたい
 - ▶ 大学院まで進学しないと心理学が役に立たないわけではない
 - ▶ 社会臨床心理学は、社会の中に心の支援・援助システムを作り上げること
を目標とする
 - 社会の中に、有効なこころの支援システムを作り上げるには、心理学は臨床分野に人材を送り出すだけでは不足！

コミュニケーション＝問題解決の基本

▶ 例えば...社会的ひきこもり

- ▶ ひきこもりの子どもに何て声をかけたらいい？
 - ▶ 「出ておいでよ」...は、無駄な声掛けだよね
- ▶ 引きこもりは、子どもの内面の問題？
 - ▶ 子どもと社会とのつながりの問題...だよね
- ▶ 社会臨床的なアプローチ例
 - ▶ 「子ども－家族」、「家族－社会」、「子ども－社会」の間のコミュニケーションの窓口を確保
 - ▶ 子どもが甘えられる環境(関係)を整備(「自立」のためには、「依存」する自己を正しく認識することが必要)
 - ひきこもり→自己嫌悪→他人の介入を受け入れない→さらにひきこもり
 - 甘え...日本文化における伝統的な甘えに基づく関係構造は「一方的な依存」ではなく、「相互援助」の関係(「ソーシャルスキル」のひとつ; 土居, 1971)
 - ▶ コミュニケーションを通じた相互援助の関係構造
 - こころの健康の要

悪循環の心理の例

▶ 酒飲み男の星(「星の王子さま」)

- ▶ 王子さま「こんにちわ。ここで何をしているの？」
- ▶ 酒飲み男「酒を飲んで酔っ払っているんだ」
- ▶ 王子さま「なぜ酔っ払っているの？」
- ▶ 酒飲み男「忘れるため・・・」
- ▶ 王子さま「何を忘れるため？」
- ▶ 酒飲み男「・・・」
- ▶ 王子さま「あの、顔色がすごく悪いよ」
- ▶ 酒飲み男「俺は・・・恥ずかしいことを忘れたいんだ」
- ▶ 王子さま「何が恥ずかしいの？」
- ▶ 酒飲み男「・・・」
- ▶ 王子さま「ねえ、何が恥ずかしいの？」
- ▶ 酒飲み男「こうして酒を、飲んで、酔っ払うことが！」
- ▶ 王子さま「・・・」

(大人というのは、確かにとても変わった人たちだ、という思いをますます深めながら、王子さまは旅を続けた...)



地域社会の心理支援システムの例

- ▶ 鳩間島(八重山諸島西表島の北、面積1km²)
 - ▶ 人口50人の「子乞い」の島
 - ▶ 廃校の危機を迎えた学校(鳩間小中学校)
 - ▶ 里子を迎えることで存続を図る(多くは不登校などの問題をもつ子)
 - ▶ 子どもを「預かる」のでない! 子どもは地域づくりの一員!
 - ▶ 子どもを「育てる」のではなく、子どもが「育つ」社会システム



鳩間島の地域生活

- ▶ 昔ながらの人間臭い生活（相互援助に基づく社会）
 - ▶ 現代の都市生活が「面倒くさい」と捨て去った過去の不自由な生活様式
 - ▶ 人から騙されることはあっても、人を騙すことを知らない島民
 - ▶ 島の人々すべてが、子どもたちに関心を寄せ、島で会う子どもたちに声をかける
 - ▶ 「濃密な人間関係とコミュニケーション」が成立せざるを得ない環境
 - ▶ 「島には、『その他大勢』はいない」（鈴木ほか，2005：「不登校だったボクと島の物語」）
 - ▶ 「留学」中の子ども（神奈川県出身）の言葉
 - ▶ 「この島には何もない。ビルもないし…。でも、島自体は小さいけど、とても（世界が）広い。内地は、島は大きくても自分の住んでいるところは狭かった。」（森口，2005：「子乞い」）
- 現代社会のさまざまな問題を打開する糸口は、このような地域の活動の中に見出すことができるのではないだろうか！

社会臨床の視点が示すこと

- ▶ 「社会」や「人間関係」の視点って...
- ▶ たぶん「環境問題」の視点と基本的に同じなのだ...
(環境が良ければ, 人は心理的にも健康・幸福な生活ができる)

...となると, 大切なことは何？

監修・辻 信一

ハチドリのひとしずく

いま、私にできること



光文社

ハチドリのひとしずく



いま、私にできること

監修・辻 信一

光文社



9784334974916



1920095011431

ISBN4-334-97491-0

C0095 ¥1143E

定価(本体1,143円+税)

森^{もり}が燃^もえていました

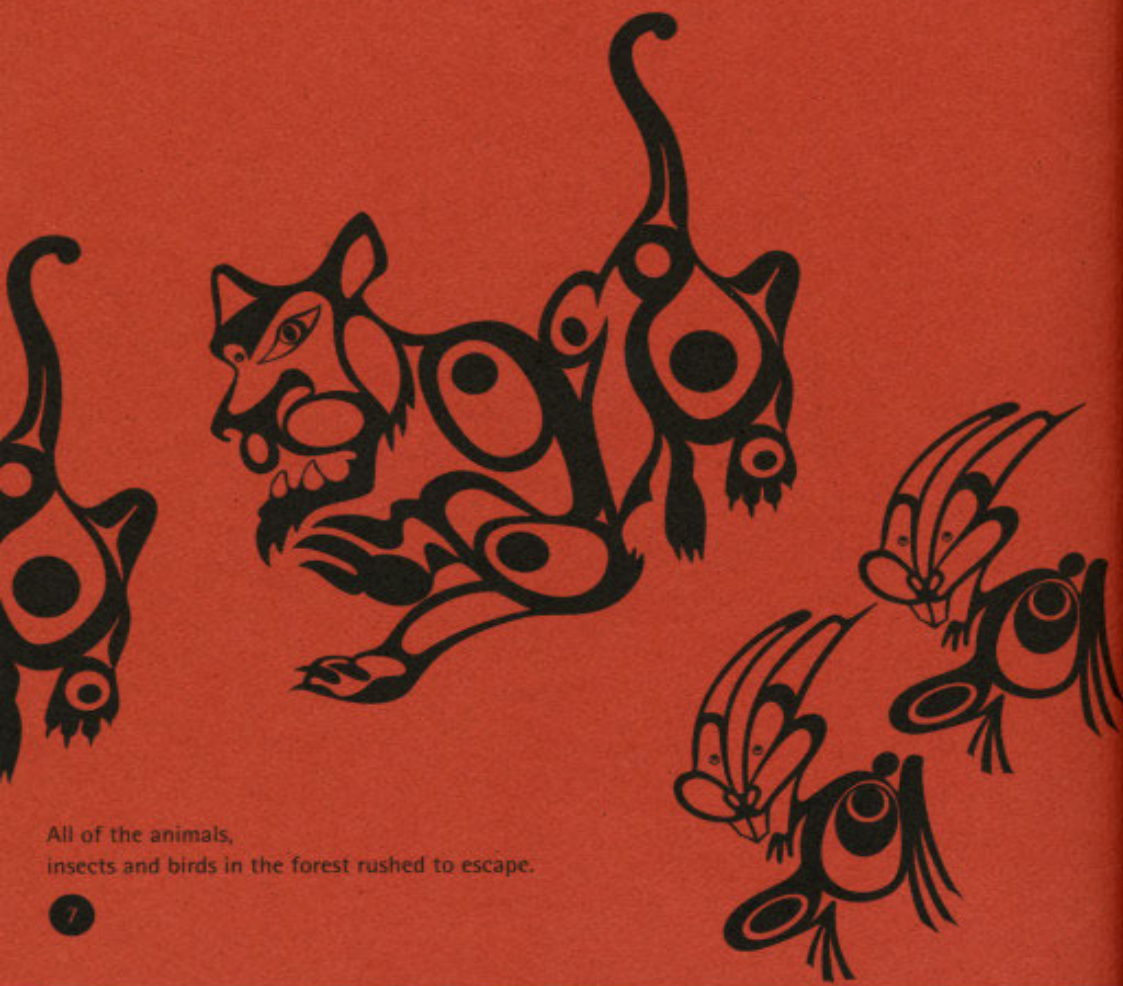
The forest was on fire.

森の生きものたちは

われ先にと

逃げて

いきました



All of the animals,
insects and birds in the forest rushed to escape.

But there was one little hummingbird named Kurikindi,
or Golden Bird, who stayed behind.
This little bird went back and forth between water and fire,
dropping a single drop of water from its beak onto the fire below.



でもクリキンディという名の
ハチドリだけは
いったりきたり
くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます



動物^{どうぶつ}たちがそれを見て

「そんなことをして

いったい何^{なん}になるんだ」

といって笑^{わら}います



When the animals saw this, they began to laugh at Kurikindi.
"Why are you doing that?" they asked.

クリキンディは
こう答こたえました

「私わたしは、私にできることをしているだけ」



And Kurikindi replied, "I am only doing what I can do."

心の問題に対する対処原則も同様！

- ▶ 今...
- ▶ ここで...
- ▶ 自分に...
- ▶ できることは何か！

(誰かがやってくれるだろう...誰かにやってもらおう...じゃ、だめなんじゃない?)